



公益社団法人 日本環境教育フォーラム

活動報告書 2024

教育の力で、環境問題を解決する。

公益社団法人 日本環境教育フォーラム

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-38-5日能研ビル1階
TEL : 03-5834-2897 / E-mail : info@jeef.or.jp
<https://www.jeef.or.jp/>



デザイン・東村ほのか



A c t i v i t y R e p o r t

2023.4.1 - 2024.3.31



教育の力で、環境問題を解決する。

ご挨拶

日本環境教育フォーラム(JEEF)へのご支援・ご協力をいただきありがとうございます。
JEEFの2023年度の活動を取りまとめた報告書をお届けいたします。
ぜひご一読いただき、JEEFへのご理解をさらに深めていただければ幸いです。

理事長挨拶



理事長 阿部 治

2023年度は、JEEF設立30周年の集い(※)を立教大学で、清里ミーティングを4年ぶりに清泉寮でそれぞれ実施しました。久しぶりの対面の集いは大変好評で、会員相互の交流をはじめとしたリアルな交流の重要性、さらにはネットワーク組織であるJEEFの役割を再確認する場となりました。この2つの行事では生物多様性保全(ネイチャーポジティブ)に焦点を当て、JEEFとしてもネイチャーポジティブ推進に向けた環境教育の取り組みを積極的に進めています。

JEEFは、環境教育を推進する法制度等の政策提言も行っています。2023年度は我が国の環境教育を推進する法律である環境教育等促進法(略称)の基本方針の改定の年であり、JEEFは事務局として積極的に関与しました。新たな基本方針では「持続可能な社会への変革に向けた環境教育」を掲げ、中間支援機能を活かした環境教育・協働取組の推進等を挙げています。2024年度からは、JEEFが中間支援組織であるESD活動支援センター(全国センター)の運営を受託しました。JEEFのネットワークや様々な活動を活かして、新たな基本方針を具体化すべく意欲的に取り組んでいきます。

また、基本方針では「若者の社会変革への参加の促進」を掲げています。実は2023年8月、国連子どもの権利委員会は「気候変動に焦点を当てた子どもの権利と環境に関する一般的意見26」を公表し、気候危機や生物多様性の破壊、環境汚染等による子どもの権利侵害を指摘し、環境教育の重要性を指摘しています。JEEFはこの動きを歓迎するとともに、若者が社会変革に参加する力を育むことにつながる環境教育をこれまで以上の積極性をもって推進していきます。

最後にロシアによるウクライナ進攻、さらに2023年10月に始まったイスラエルによるガザ侵攻等、持続可能な社会の実現に逆行する動きが止みません。一刻も早い停戦を切に願っています。

※新型コロナウイルス感染症によって実施を1年間延期

VISION ー実現したい社会

かけがえのないこの地球で、
次の世代も心豊かに、笑顔でくらしていけるように、
多様なパートナーと協働しながら
持続可能な社会の実現を目指します。

MISSION ーわたしたちが取り組むこと

地球環境をはじめ、
複雑に絡み合う様々な問題の解決に向けて、
表面的な知識を与えるのではなく、
『体験と対話を重視した環境教育』によって
「自ら課題を見つけ、学び、考えて行動できる人材」
を育成します。

2023年度 ハイライト

企業や団体、行政等との協働により、未来を見据えた多くの新しい事業が始まりました。

01

4年ぶりの清泉寮開催！

■自主事業 『清里ミーティング』



持続可能な社会に貢献する「ひとづくり」に携わる人たちの学び合いの場です。2023年度は4年ぶりに、清里ミーティングの原点である清泉寮で開催しました。テーマは「これからの日本型環境教育の提案～2030ネイチャーポジティブ～」。会場の関係で総勢120名と過去よりは小規模ですが、そのぶん密な交流ができたように感じています。

ネイチャーポジティブの考え方を知り、多様なセクターとの協働によってより大きな展開を起こすヒントをとともに探りました。計14本のワークショップ、22組のポスターセッション発表など、世代も業種もこえた参加者同士が学び合い、議論する3日間となりました。

02

社員ボランティアの皆さまと協働して環境保全！

■メットライフ生命、メットライフ財団 『100年後に生きる子どもたちに感謝される森づくり』



NPO法人しんりんが管理するエコラの森(宮城県大崎市)内に「メットライフ財団の森」を設置し、社員の皆さまとともに計500本の広葉樹を植樹した他、下草刈りなども実施しました。また、エコラの森から出た建築端材を活用した「木こり箸」を製作し、児童養護施設や子ども食堂に届ける「つなぐ！お箸プロジェクト」では7,000膳を製作・寄贈しました。その他に、長崎県花であるミヤマキリシマ群落の絶景を未来の子どもたちに継承していくことを目的とした下草刈りのボランティア活動も長崎県雲仙市でスタートしました。

03

GEMSからELMSへ！新しい探究的な学びのセンターが誕生！

■自主事業 『ELMSセンター』

2001年に設立されたジャパンGEMSセンターは、日本におけるGEMS(※)の拠点として、大人から子どもまで多くの方がGEMSを通じた探究的な学びを体験できる場をつくってきました。2024年からは、時代に合わせ役割を刷新し、新たな探究的な学びの拠点「ELMS(Exploratory Learning in Math and Science; エルムズ)センター」として再スタートいたします。GEMSが大切にしてきた視点に加え、持続可能な社会への視点や多様性の尊重、場づくりとファシリテーションなどの要素を強めて、科学と数学の探究的な学びを追求していきます。その他、「これからの環境教育の提案」や「誰ひとり取り残さない環境教育」の活動も従来通り続けて、環境教育・ESDのトップランナーとして社会を牽引していきます。

※GEMS (Great Explorations in Math and Science; ジェムズ) : カリフォルニア大学バークレー校の付属機関ローレンスホール科学教育研究所で開発された、幼稚園から高校生までの子どもを対象とした科学と数学の参加体験型プログラム。



04

新たな6次産業化を通じた生計向上を目指して

■外務省、Bangladesh Environment and Development Society (BEDS) 『バングラデシュ・ジョシヨール県の零細ヤシ砂糖生産者と花卉農家の6次産業化を通じた生計向上プロジェクト』



2023年5月よりバングラデシュの南西に位置するジョシヨール県で新規事業が始まりました。ジョシヨール県では、ヤシの樹液を採取して生産するヤシ砂糖や花卉栽培が有名ですが、その生産農家は経済的に大きな課題を抱えています。本事業では、農業や農村の振興および観光の促進による生計向上を通じた貧困削減を目的として、①ヤシ砂糖生産者、②花卉生産農家、③手工芸グループ、④アグロツーリズム・グループ、⑤学校教育の5つのセクターに働きかけを行っています。1年次は、生産者協同組合を結成し、生産技術や人材育成のトレーニング、マーケティング等を行った結果、順調に収入向上に繋がっており、現地からは喜びの声が多く寄せられています。

05

環境教育・ESD 優良事例のショーケース！

■環境省 『環境教育・ESD 実践動画 100選』



子どもを対象としたSDGsや環境教育・ESDの3分間の実践動画を募集し、審査のうえ、優良事例を認定する取り組みです。初年度は学校教育部門及び社会教育部門の両部門合わせて81件が選定されました。選定された動画は公式ウェブサイトで公開されています。



事業一覧

■企業等との協働事業

部門	事業名	協働パートナー
国内事業	市民のための環境公開講座	SOMPO ホールディングス、 SOMPO 環境財団
	王子の森・自然学校	王子ホールディングス、 ホールアース自然学校
	わたしの自然観察路コンクール	富士フィルム・グリーンファンド
	100年後に生きる子どもたちに感謝される森づくり	メットライフ生命、メットライフ財団
	日本環境教育学会年次大会運営	日本環境教育学会、日本環境教育学会 第34回年次大会実行委員会
東京マラソン 2024 チャリティ	東京マラソン財団	
海外事業	NGO ラーニング・インターンシップ・プログラム in インドネシア	SOMPO 環境財団
	RFID技術の導入による持続可能な自然資源利用 モデル構築プロジェクト in インドネシア	PwC 財団
	JAL スカラシッププログラム	JAL 財団
	SDGs ツアー in カンボジア	東京立正高等学校、近畿日本ツーリスト
	ジャカルタ湾岸マングローブ林再生事業	緑の募金、経団連自然保護基金
ELMS (旧 GEMS)	中学校理科出前授業	明電舎
	「海とさかな」自由研究・作品コンクール	朝日新聞、朝日学生新聞、ニッセイ
	おそうじ科学実験&おやこネイチャー楽校	サニクリーンアカデミー
	海洋プラスチックのない世界を目指した 環境教育プログラム	ジョンソン株式会社 (SC ジョンソン)
	ブータン教員養成プロジェクト	日能研、Athang Learning Institute
千葉工業大学新入生オリエンテーション ワークショップ	千葉工業大学	

■自主事業

部門	事業名
国内事業	清里ミーティング
	東京ネイチャーアカデミー
	誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験
ELMS (旧 GEMS)	探究的な学びの普及・研究
	探究的な学びの指導者養成
	GEMS テキスト販売

■行政等との協働事業

部門	事業名	協働パートナー
国内事業	国立公園満喫プロジェクト人材育成支援業務	環境省、日本エコツーリズム協会
	教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修業務	環境省
	環境教育・ESD実践動画100選運営業務	環境省
	環境教育等促進法の基本方針改定に向けた 専門家会議運営業務	環境省
	インタープリテーションに関する計画の普及に 向けた情報収集及び検討業務	環境省
	中部山岳国立公園上高地 インタープリテーション計画策定業務	環境省
	自然公園等利用者数等集計業務	環境省
海外事業	日中韓環境教育ネットワーク事業実施等委託業務 (TEEN)	環境省
	日中韓三カ国環境大臣会合 (TEMM) ユースフォーラム運営支援業務	環境省、海外環境協力センター
	バングラデシュ・ジョシヨール県の 零細ヤシ砂糖生産者と花卉農家の6次産業化を通じた 生計向上プロジェクト	外務省、BEDS

国内事業

多様なパートナーと共に、「自然から学ぶ環境教育／体験から学ぶ環境教育」を推進しています。

1993年から続く市民向け環境講座！これまでの参加者は延べ約4万人

■SOMPOホールディングス、SOMPO環境財団『市民のための環境公開講座』

市民の皆さまと共に環境問題やSDGsを理解し、それぞれの立場で持続可能な未来に向けてアクションを起こしていくことを目指した講座です。1993年に企業とNGOのパートナーシップ事業の先駆けとして始めました。2023年度は、「Re-Style -新しい“ゆたかな”暮らしをつくる9つの視点-」を全体テーマに全9回の通常講座を開催しました。また、特別講座では末吉里花さん(エシカル協会代表理事)とお笑い芸人の田中直樹さん(ココリコ)をゲストにお迎えしたサステナブルトークイベントを開催しました。



市民のための環境公開講座 2023 オンライン開催 無料

Re-Style -新しい“ゆたかな”暮らしをつくる9つの視点-

03 8/2 18:00 - 19:30
その自然には、物語がある
国立公園で目指す上質なツーリズム

08 11/1 18:00 - 19:30
カポックノットと共に学ぶ、社会性と事業性を両立するソーシャルビジネスの在り方とは

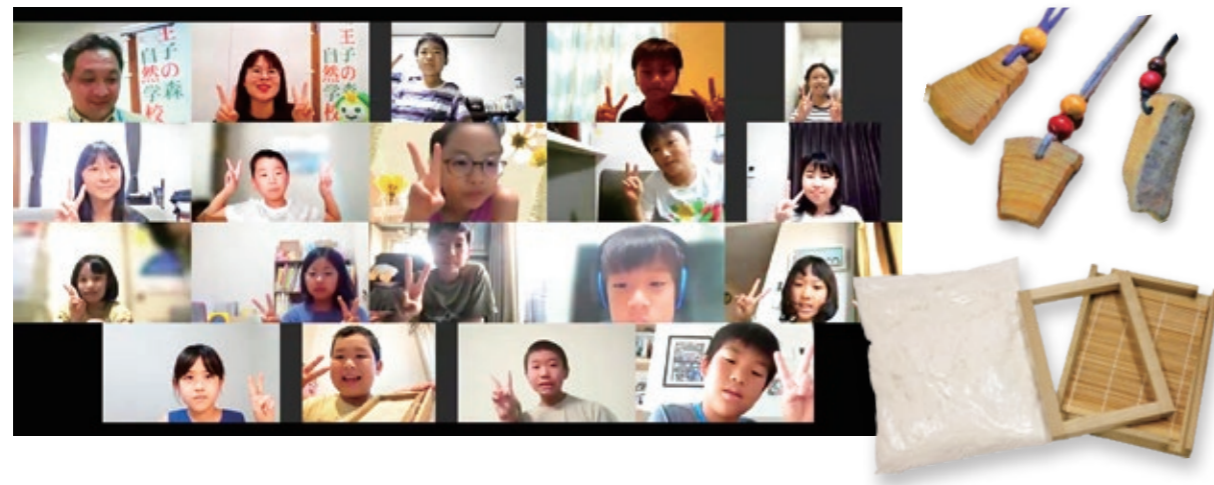
岡野 隆宏氏
環境省 前国立公園課
国立公園利用推進室長

深井 喜翔氏
KAPOK JAPAN 株式会社
代表取締役

夏休み、全国から220名の小学生が参加！

■王子ホールディングス『王子の森・自然学校』

「王子の森・自然学校」は「人・森・産業のつながり」を学ぶのが特徴です。紙が木材と古紙からできていることや、木を植え、育てて使う「森のリサイクル」と、古紙から紙へ再生する「紙のリサイクル」を学ぶ2つのオンライン・プログラムを実施しました。3日間で計12回を開催し、終了後の保護者アンケートでは「子どもにとって分かりやすい絵や説明で、理解が深まった様子です」「リサイクルについてのクイズが勉強になり、楽しんでいた」といった声が寄せられました。



全国の教職員 281名が受講！

■環境省『教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修業務』



学校や地域で質の高い環境教育・ESDを実践・推進するリーダー人材を育成することを目的とした研修事業です。カリキュラム・デザイン・コースでは、総合的な学習(探究)の時間と各教科を関連づけた環境教育・ESDの年間指導計画表(ESDカレンダー)の作成ノウハウを習得し、カリキュラムマネジメントの実践力を磨きました。また、プログラム・デザイン・コースでは体験活動を取り入れた環境教育プログラムの企画・実践力向上を目指しました。全21回の研修会で397名(内教職員281名)が受講しました。

子どもたちがつけた自然を、絵と作文で表現するコンクール

■富士フィルム・グリーンファンド『わたしの自然観察路コンクール』

子どもたちが考えた「自然観察路」のコンクールの事務局をJEEFが担当し、今年で7年目になりました。コンクールでは、身近な自然の面白さを発見し、自然を観察できる道「自然観察路」を自分で考えて、絵や文章で紹介します。

これまでに全国の小中高校生から2万点以上の作品を応募いただき、2023年度は724もの力作が届けられました。1984年に始まった本コンクールが昨年40周年を迎えたことを記念し、2024年には記念イベントを新宿御苑とオンラインで2回開催します。



第40回 小学生の部 環境大臣賞受賞
古賀詠麻さんの作品

エコツーリズムを学ぶ合宿研修に、11地域が参加！

■環境省『国立公園満喫プロジェクト人材育成支援事業』



エコツーリズムやインタープリテーション(IP)を学び、地域の行動計画を作成する2泊3日の合宿研修を開催しました。観光に携わる関係者がチームを結成して参加するのが特徴で、会場的那須高原には11地域から29名が集合しました。研修にはフィールド実習が含まれ、那須平成の森フィールドセンターで、IP体験やIP全体計画を学びました。研修後は講師を11地域に派遣し、行動計画実践のフォローアップを実施。また、過去に研修に参加した地域向けに、オンラインでインバウンド受入れの基礎を学ぶ研修を開催し、4地域が参加しました。

海外事業

環境保全や環境教育だけでなく、地域住民の生活・生計の向上も踏まえた事業展開を実施しています。

持続可能な未来へ、アジアの若者たちに期待

■JAL財団 『JAL スカラシッププログラム』

1975年から続いているJALスカラシッププログラムの企画・運営に、JEEFは2022年から関わっています。このプログラムでは、アジア・オセアニアの大学・大学院生を日本に招待し、日本への理解や相互理解を深め、将来的に地域を担う若者を育成します。

2023年度のテーマは「SDGs」～持続可能な未来へ～未来に続く豊かさのために、環境について考えよう。福岡・東京でのフィールド体験や施設の視察を通して、グループでアクションプランを作成したり、個人の2030年までの目標を発表しあったりしました。



4年ぶりの対面開催で日中韓が意見交換

■環境省 『日中韓環境教育ネットワーク (TEEN) 事業』

“気候変動の緩和と適応を目指した環境教育～「参画」に焦点を当てて～”をテーマに韓国の済州島で開催されました。シンポジウムでは、三カ国の活動事例の共有や課題等の発表および意見交換が行われました。また、ワークショップでは気候変動教育及び環境教育の研究校に指定されている中学校を訪問し、日本及び中国の代表者からそれぞれ気候変動をテーマとした授業を実施した他、トンベクトンサン湿地センターを視察しました。



DX化を通じて自然資源管理に取り組む

■PwC財団 『RFID技術の導入による持続可能な自然資源利用モデル構築プロジェクト』

インドネシアのウジュン・クーロン国立公園における野生蜂蜜の採集活動において、RFID(Radio Frequency Identifier = 電波を用いた情報取得システム)技術を導入し、蜂蜜の採集地点や採集時期などのデータ化に取り組みました。これにより、国立公園における地域住民の生計維持と自然環境保護のバランスを維持した共生型の事業推進が実現し、DX化を通じた自然資源の持続的な利用のモデルケースとなりました。



マングローブ林の回復に貢献

■経団連自然保護基金・緑の募金

『ジャカルタ湾岸マングローブ林再生事業』

近年、海岸浸食が進むジャカルタ湾北東部の保全林地域において、地域住民と協働してオオバヒルギの植林を通じた環境再生に貢献しています。マングローブ林が再生することで、天然のエビやカニなど漁業資源も回復しています。

本事業では、緑の基金の助成により1万本(4Ha)、経団連自然保護基金の助成により1万本(4Ha)の植林を行い、地域の森林再生に取り組んでいます。



高校生を対象とした課題解決型海外研修

■東京立正高等学校、近畿日本ツーリスト 『SDGs ツアー in カンボジア』

現地NGOや孤児院への訪問、現地高校生徒との交流などからカンボジアが抱える社会課題を知るとともに、課題解決に向けた計画を考え、行動を起こすことを目的とした海外研修を企画・運営しました。研修を通して生徒は社会課題に対して真剣に向き合うとともに、高校生ならではの視点で解決策を考えました。その結果、文化祭でミサンガを販売し、その収益を孤児院に寄付するなど海外研修をきっかけとした新たなアクションが生まれました。



ELMS

体験をベースにした科学と数学の探究によって、自ら学び、考える姿勢を育てるワークショップを幼児からシニアまで幅広く展開しています。



GEMSからELMSへ

ジャパンGEMSセンターは、日本におけるGEMS(※)の拠点として、日本環境教育フォーラム内に2001年に設立され、以来22年間で多くの方々がGEMSを体験し、全国で活躍する指導者となりました。2024年からは、時代に合わせ役割を刷新し、新たな探究的な学びの拠点「ELMS(Exploratory Learning in Math and Science; エルムズ)センター」として再スタートいたします。

ジャパンGEMSセンターが大切にしてきた視点の他、持続可能な社会への視点や多様性の尊重、場づくりとファシリテーションなどの要素を強めて、科学と数学の探究的な学びを追求していきます。その他、「これからの環境教育の提案」や「誰ひとり取り残さない環境教育」の活動も従来通り続けて、環境教育・ESDのトッランナーとして社会を牽引してまいります。

※GEMS (Great Explorations in Math and Science; ジェムズ) : カリフォルニア大学バークレー校の付属機関ローレンスホール科学教育研究所で開発された、幼稚園から高校生までの子どもを対象とした科学と数学の参加体験型プログラム。

ELMSセンター



(Web)

ELMSセンターは、考えることが楽しくなるような科学と数学の探究的な学びを研究し、子どもたちの学ぶ意欲をくすぐるラボ。子どもたちは科学者のように想像力と創造力を思い切り使いながら、実験をデザインし、話し合い、結論を導き出していきます。さらに、ロールプレイ、ゲーム、クラフトなど、実際にからだを使った、楽しさいっぱいのアクティビティが心おどる探究を生み出します。

一人ひとりの“違い”が尊重され、“間違い”からも学んでいくポジティブな学び方を経験することで、子どもたちは複雑な社会課題や環境問題の解決を担う「自立した学習者」になっていくのです。

ロゴマークについて

ELMIは、ニレ(楡)という意味の英単語です。

街路樹や公園樹としても人気のニレは、材木にするとねばりがあって曲げに強いので、建築材や家具、楽器などさまざまな用途に使われる身近な木です。「身近にあり、さまざまなものに活用することができる」という点が、わたしたちが目指す学びのイメージに合っていることに加え、建築材に使われる点が「学習者自身が学びの家を建てる」という比喻にも通じます。



探究的でゆたかな学びを、より多くの子どもたちへ!



■自主事業 『探究的な学びの普及・研究事業』

対面・オンラインを併用し、探究的な学びのワークショップを全国各地で行いました。科学や数学の楽しさにふれる親子講座、闘病中の子どもたちとオンラインで話しながら一緒に実験をするワークショップ、SDGsや環境問題について体験とともに学ぶワークショップなど、幼児～大人まで、幅広い参加者の方と探究を共にしました。また、より多くの子どもたちがゆたかな学びを体験できる世界を目指し、大人向けに、教育心理学の知識を取り入れた探究的な学びの作り方を伝える講座を開催しました。

海洋プラスチック問題に、地域でアクション!

■ジョンソン株式会社 (SCジョンソン)

『海洋プラスチックのない世界を目指した環境教育プログラム』

ジョンソン株式会社の日本国内オフィスがある横浜市にて、海洋プラスチックがない世界を目指した環境教育プログラムを展開しています。小学校での出前授業、SUPに乗ってのクリーンアップ、海洋プラスチックを素材にしたアクセサリー作り、海洋プラスチック問題についての体験的な授業を提供できるようになるための大人向け指導者講座など、アプローチは様々です。横浜SUP倶楽部、海の公園、横浜・八景島シーパラダイスなど、横浜市の団体とも協働しながら取り組みました。



私たちの暮らしと環境のつながりについて考える!



■サニクリーンアカデミー

『おそうじ科学実験 & およこネイチャー楽校』

清掃・掃除用品メーカーのサニクリーンと協働で、おそうじとサイエンスのつながりを楽しみながら体験して知るワークショップ「おそうじ科学実験」を実施しました。また、これからの社会を担う子どもたちのため、親子で自然体験をする「サニエルおよこネイチャー楽校」を実施し、椎の森自然環境保全緑地で、自然遊びをしながらSDGsや環境問題について学ぶイベントを開催しました。サイエンスや自然環境といった大きなテーマも、私たちの家庭での生活と密に繋がっていることを体感できるイベントとなりました。

寄付金活用事業

誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験を提供するため、寄付や会費等を活用した学びの場を創造しています。

皆さまからいただいた寄付や会費等を活用して、「誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験」を提供しています。身体的理由や経済的・地域的な理由などで、これまでJEEFのプログラムに参加する機会がなかった方々との出会いの場を増やしています。

これらの活動の推進により、2023年度は、
合計 **9つの都道府県** の方々に
学びの場を提供することができました。



すべての子どもが自然とふれあえる環境をつくる

■寄付活用事業 『わくわく子どもキャンプ』

様々な地域の自然学校との協働により、ひとり親世帯や生活困窮世帯、発達障がいを持つ児童と保護者などを対象にしたキャンプを全6回開催。溪流遊びや、海でのカヤック体験、冬の雪遊びなど、地域や季節の特性を生かした体験を実施しました。

子どもたちは自然と触れ合い、自分なりの楽しみ方を見つけていく中で、初対面の子ともいつの間にか打ち解けることができたり、薪割りや火の焚き方を教えてあげるリーダーシップを発揮したりする姿が見られました。保護者の方からは、「子どもたちに色々な体験をさせたいが、なかなか自然体験はさせてあげられないので良い機会だった」「(宿泊期間中に)子どもとずっと一緒にいなくてもよいということで、大人自身も楽しめた」といった声をいただきました。

さらに、実施後の日常でも「帰宅してからも家族の中で今回の宿泊体験のことが話題になってコミュニケーションが取れている」「親子関係が穏やかになった」といった声も寄せられました。大人も子どもも自然と親しみ、体験を通して人と人とのつながりを深める機会となりました。



探究の場に出ることの少ない子どもたちに、楽しい学びのチャンスを！

■寄付活用事業 『探究ワークショップキャラバン』

小児がんなどの重い病気と闘う子どもや、学校に行けていない子ども、地域的・経済的な理由で都市の会場まで足を運べない子どもなど、なかなか探究的な学びと出会う機会に恵まれない子どもたちがいます。そこで、全国各地に伺って無料の探究ワークショップを提供し、学ぶことの楽しさや、外の世界に興味をもつきっかけをつくるプロジェクトを実施しました。

岡山県では、病気と闘う子どもやその周りにいる大人を対象に、身近なものから探究をつくるワークショップを、静岡県や青森県では、学校の学習に乗っていない子や、そういった子にどう寄り添うか悩んでいる保護者を対象にワークショップをそれぞれ開催しました。

最初のうちは慣れない学習スタイルに「どうせ分からないし…」と引いてみていた子どもたちが、コツを掴んでくるにつれてどんどん前のめりになり、ワークショップ終了後も帰ろうとしないで探究を続ける姿から、子どもたちの学びに対する旺盛な意欲が感じられました。



大人こそ、自然体験を！

■寄付活用事業 『森 de リトリート』

「人と自然」をつなぐ試みとして、健康やセルフケアという視点で森を捉え、人も森も元気になるために私たちができることについて考えていく契機となることを願い、リトリート(心と身体のバランスを整えなおすこと)プログラムを実施しました。

「清里の森で、自分と自然の声に耳を澄ます2日間」をテーマに、五感をフルに使って、心と身体で森の時間を味わっていただく大人の自然体験を春と秋に開催。日々の喧騒を忘れて森の中で自分自身を見つめる、充実の2日間となりました。



会員制度

JEEFの理念に賛同いただき、共に学び、考え、行動していく仲間を増やしていくことを目指します。会員の皆さまの力を持ち寄り、発揮していただける会員コミュニティをつくってまいります。自団体だけでは難しい複雑な課題の解決方針・方策を一緒に考えていきましょう。

会員数		※2024年4月1日現在
特別会員	10名	
正会員(団体/個人)	9団体/51名	
普通会員(団体/個人/学生)	37団体/378名/10名	
賛助会員	9団体 ※50音順	カローラ株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社小学館、SOMPOホールディングス株式会社、瀧本株式会社、トヨタ自動車株式会社、株式会社日能研、公益財団法人ニッセイ緑の財団

普通会員	正会員	賛助会員
環境教育について知りたい、JEEFの活動を応援して下さる方はぜひ会員としてJEEFの活動にご参加ください。	正会員は公益社団法人であるJEEFの法律上の社員です。年1回以上開催する社員総会において1票の議決権を持ち、JEEFの運営に直接関わります。	JEEFの活動を資金面でサポートしていただく会員です。
団体 20,000円/年 (入会金 10,000円) 個人 6,000円/年 (入会金なし) 学生 3,000円/年 (入会金なし)	団体 80,000円/年 (入会金 20,000円) 個人 20,000円/年 (入会金 10,000円)	一口 100,000円/年
		※ 正会員と賛助会員は年度会費です。(いつご入会されても4月～翌3月が会費期限になります。) ※ 団体普通会員(2万円)と賛助会員(一口10万円)は複数口の加入が可能です。 ※ 普通会員の会費(個人のみ)は寄付金扱いとなり、税制上の優遇措置の対象となります。

【会員特典】

- 機関誌「地球のこども」(年2回)、活動報告書(年1回)、会員限定メルマガ(月1回)、イベントへの参加ご優待(割引など)、メルマガ「身近メール」への情報掲載(月1回)を致します。
- 新たにJEEFの会員になっていただいた方には、JEEFオリジナル紙ホルダーとJEEFピンバッジを差し上げます。



会員・寄付についての詳細は <https://jeef.or.jp/joinus/> をご覧ください ▶



寄付制度

皆さまからの温かいご支援を活用して、“誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験”をテーマに、日常で不安やストレスを抱えている人たちが“ほっとできる”ような自然体験や環境教育の場をつくっていきます。

いただいた寄付の活用方法

活用例

- ・ひとり親世帯、生活困窮世帯の子どもたち、障がいをもつ子どもたちも参加できる自然体験
- ・重い病気と闘う子どもたちに楽しい学びの機会を提供
- ・ストレス社会で頑張る大人のための癒しの機会を提供

※詳細はP.15～16をご確認ください。

寄付の方法

<p>任意の金額を1回寄付</p> <p>お好きなタイミングで任意の金額を寄付いただけます。</p>	<p>マンスリー寄付</p> <p>毎月、任意の金額を寄付いただけます。</p>
---	---

買い物を通じて寄付

モンベルクラブ「JEEFサポートカード」、ZERO PC「想うプロジェクト」など、買い物することで購入金額の一部がJEEFへの寄付となります。



スポーツチャリティを通じて寄付

JEEFは東京マラソン2024チャリティの寄付先団体です。チャリティランナー、寄付によるご支援等で参加いただけます。



©東京マラソン財団

Giving December

JEEFは寄付月間(Giving December)の理念に賛同し、パートナーとして参加しています。



【寄付特典】

- 寄付をくださった方には、JEEFオリジナルグッズをプレゼントいたします。

寄付に関する詳細は <https://www.jeef.or.jp/joinus/#tab02> をご覧ください ▶



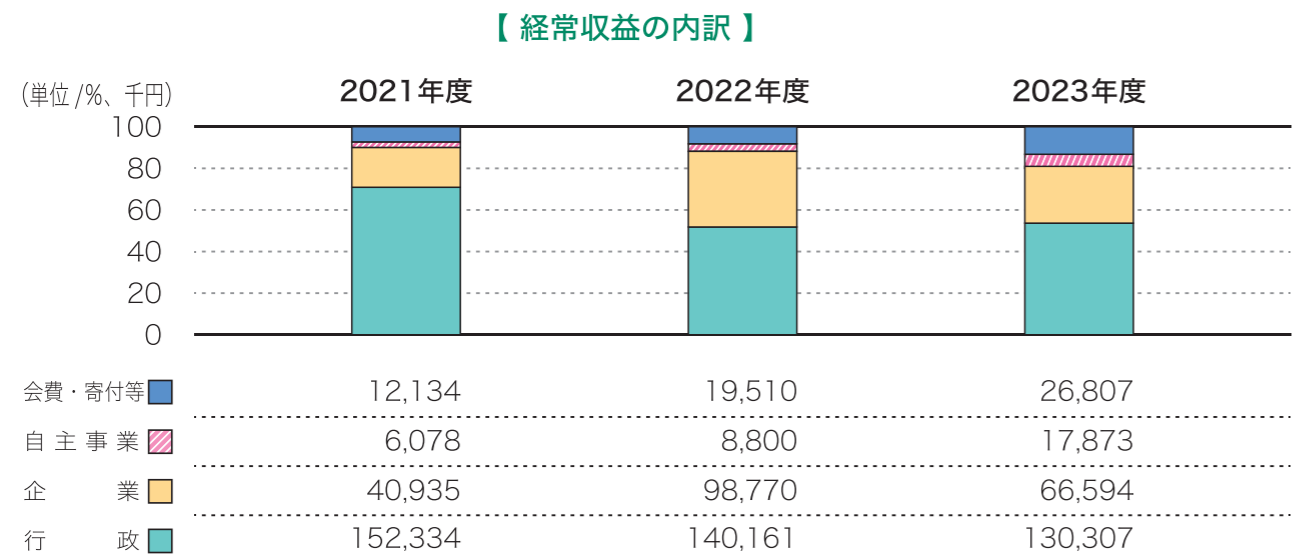
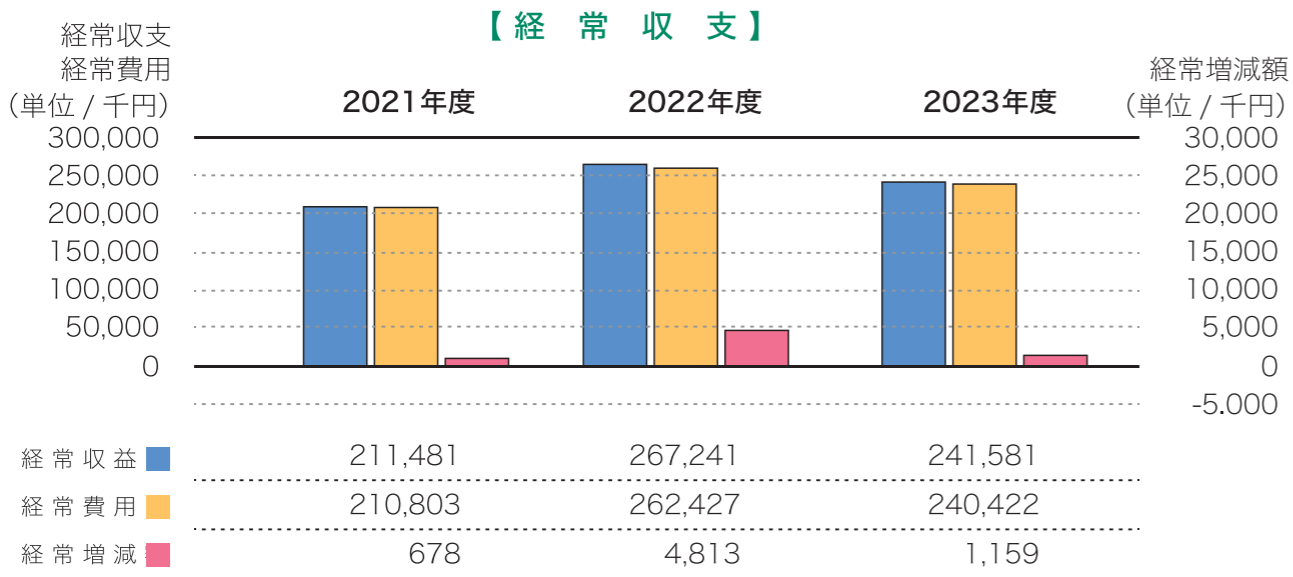
【総評】

2023年度は環境省・外務省を中心に新規事業が始まりました。また、2022年度から始まった企業からの受託事業も継続しての実施となりました。これにより財務基盤の安定化が図られ、3期連続での黒字を達成することができました。また、寄付金を活用した「誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験」も、徐々にではありますが全国各地でプログラムを提供することができました。

一方で、昨年7月の国連総会においてグレーテス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した。」と述べており、気候変動や生物多様性の喪失に代表される環境問題は悪化の一途をたどっています。そのため、JEEFでは「教育の力で環境問題を解決する」ことを目指して、人々や社会の行動変容につながる環境教育を展開していくとともに、環境教育・ESDのトップランナーとして社会を牽引してまいります。

事務局長 加藤 超大

※2024年4月1日現在



会長	岡島 成行	学校法人青森山田学園 理事長
理事長	阿部 治	立教大学 名誉教授
専務理事	高野 孝子	特定非営利活動法人 ECOPLUS 代表理事 早稲田大学文学学術院 教授
常務理事	辻 英之	特定非営利活動法人グリーンウッド自然体験教育センター 代表理事 青森大学社会学部 教授
理事	安西 英明	公益財団法人日本野鳥の会 参与
	菅山 明美	株式会社ハッピーエンジン 代表取締役
	鈴木 和信	日本大学国際関係学部 教授
	高木 幹夫	株式会社日能研 代表取締役
	田中 泰	特定非営利活動法人白川郷自然共生フォーラム 理事長
	長沢 裕	タレント
	西村 仁志	広島修道大学人間環境学部 教授
	藤田 香	東北大学グリーン未来創造機構/大学院生命科学研究科 教授
	古屋 悠	株式会社イキモノ 代表取締役
	山田 健	サントリーホールディングス株式会社サステナビリティ経営推進本部 シニアアドバイザー
監事	松田 勉	松田勉税理士事務所 税理士/元麴町税務署長
	渡邊 綱男	一般財団法人自然環境研究センター 上級研究員

JEEF30年のあゆみ—「感謝を伝え、未来を創る」

JEEFは、2022年に30周年を迎えました。このページでは、多くの支援者やステークホルダーの皆さまと一緒に歩んできた30年間の足跡を抜粋し、ご紹介いたします。これからも引き続き、皆さまと一緒に未来に向かって歩んでまいります。

1987 ● 第1回清里フォーラム 開催（現：清里ミーティング）

1992 ● 日本環境教育フォーラム設立

「日本型環境教育の提案」の出版により「清里環境教育フォーラム実行委員会」は目的を達成し、解散する予定でした。しかし、フォーラム参加者のネットワークをここで途切らせるのはもったいない、活動をぜひ続けようという声があり、任意団体としてJEEFが発足しました。



● 「日本型環境教育の提案」出版

1993 ● 機関誌「地球のこども」発刊

私たち人間を含むあらゆる生命が「地球のこども」という想いから名づけられました。環境の分野で活躍される方のエッセイやインタビュー、自然学校、教育現場からのレポートや海外の環境教育事情など、環境教育に関する幅広い情報を紹介しています。これまでに通算220号が発行されました。



● 「市民のための環境公開講座」開始

企業とNPOとのパートナーシップの先駆けとして損害保険ジャパン（旧：安田火災海上保険）と共催でスタート。これまでに延べ約4万人に受講いただきました。31年目を迎える2023年は「Re-Style 新しい"ゆたかな"暮らしをつくる9つの視点」をテーマにオンラインで開催しました。



● 「アメリカン・ネイチャー・ライブラリー」発刊

● 「インタープリテーション入門」出版

1994 ● 「インタープリテーション入門」出版

1996 ● シンポジウム「自然学校宣言」開催

自然学校の果たすべき課題や可能性を考えるシンポジウム「自然学校宣言」を開催しました。自然学校をはじめ行政や企業、NPO/NGOなどから約300名が参加。自然学校を社会に定着させた転機ともいえます。



● 環境庁所管「社団法人」へ移行

● 「自然学校指導者養成講座」開始

● 「日中韓環境教育ネットワーク（TEEN）」開始

● 「日本型環境教育の提案」改訂新版出版

1997 ● 環境庁所管「社団法人」へ移行

2000 ● 「自然学校指導者養成講座」開始

● 「日中韓環境教育ネットワーク（TEEN）」開始

● 「日本型環境教育の提案」改訂新版出版

2001 ● ジャパンGEMSセンター設置

カリフォルニア大学パークレー校内にあるローレンスホール科学教育研究所で開発された科学・数学の体験学習プログラムGEMS（Great Explorations in Math and Sciences）の日本におけるリソースセンターとして設置。これまでに日本語版ガイドブックを約35タイトル出版した他、約1,000名の指導者（GEMSリーダー）を養成しました。



2002 ● インドネシア事務所設置

インドネシア・ボゴールに現地事務所を設置。地域住民の生計向上と自然環境保全の両立を目指し、グヌン・ハリムン・サラック国立公園でのエコツーリズム事業やジャカルタ沿岸マングローブ林再生事業に取り組みました。また、次世代を担う環境人材の育成を目指し、NGO ラーニング・インターンシップ・プログラム in インドネシア（主催：SOMPO環境財団）の現地事務局を2019年から担当しています。



2004 ● JEEF憲章制定

2005 ● 愛・地球博「森の自然学校・里の自然学校」開校

「自然の叡智」をメインテーマに掲げて開催された愛知万博において「森の自然学校・里の自然学校」を開校。来場者に対してインタープリターが自然体験プログラムを提供しました。185日間の会期中に約54万人がプログラムに参加しました。



2008 ● 「日本型環境教育の知恵」出版

2010 ● 内閣府所管「公益社団法人」へ移行

2013 ● 「東京シニア自然大学」開校

「自然や環境について改めて学んでみたい」「自然をキーワードに仲間を作ってもらいたい」「第二、第三の人生を地域とともに健康で楽しく過ごしてもらいたい」を目的に「東京シニア自然大学」を開講。2022年からはオンライン講座も取り入れた新カリキュラムで、名称も新たに「東京ネイチャーアカデミー」として再スタートしました。



● バングラデシュでの事業開始

バングラデシュ環境開発協会（BEDS）をパートナーとして事業を開始。世界自然遺産であるシュンドルボンを中心に、天然はちみつ採集人の支援プロジェクトや6次産業化プロジェクトなど、インドネシアと同様に地域住民の生計向上と自然環境保全の両立を目指した活動を展開しています。



2017 ● 設立25周年記念シンポジウム「環境教育の未来を考える」開催

● 経団連自然保護基金25周年記念事業「SATOYAMA UMIプロジェクト」

コンサベーション・インターナショナル・ジャパン及びバードライフ・インターナショナル東京と連携して「アジア太平洋地域生物多様性保全にかかる次世代人材育成事業 SATOYAMA UMI プロジェクト」実施。アジア6カ国・地域において環境教育教材やプログラムを開発し約5万人に提供した他、日本のユース12名をインターンとして派遣しました。



2018 ● 清里ミーティングが「環境大臣賞」を受賞

環境生活文化機構主催「持続可能な社会づくり活動表彰」において、国際社会・地域社会への貢献、環境教育および生物多様性保全活動等、豊かな環境を引き継ぐため、環境・経済・社会が一体となった持続可能な社会づくりに資する活動として、清里ミーティングが「環境大臣賞」を受賞しました。



2020 ● 「新型コロナウイルスによる自然学校等への影響調査」を実施

自然体験活動推進協議会（CONE）、日本アウトドアネットワーク（JON）とともに「新型コロナウイルス感染拡大に関する自然学校等への影響調査」を実施。コロナ禍で存続の危機に直面している自然学校の支援を目的に、関係省庁への要望書提出やクラウドファンディング「自然学校エイド基金」を設置しました。



● 「第8回エクセレントNPO大賞」の「組織力賞」を受賞

2022 ● 設立30周年